

案件概要書

2013 年 8 月 27 日

国際協力機構東・中央アジア部中央アジア・コーカサス課

1. 案件名（国名）

国名：タジキスタン共和国

案件名：ドウシャンベ国際空港整備計画

(The Project for Development of Dushanbe International Airport)

2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国における航空セクターの開発実績（現状）と課題

内陸国であるタジキスタンにおいて、航空輸送は重要な輸送手段であり、首都ドウシャンベを含む 4 都市には国際空港が、その他 11 都市には国内空港が配置されている。近年の経済成長に伴い、航空需要は増加しており、特にドウシャンベ国際空港では、過去 5 年間にわたって年間取扱旅客数が年率 15-18% で増加しており、2012 年には年間取扱旅客数が 130 万人に達している。貨物については、旅客便への積載が中心ではあるが、旅客便の増加に比例して増加傾向にあり、2012 年には、年間取扱貨物量が約 3,400 トンとなっている。また、大型貨物専用機も、不定期運航している。

タジキスタンでは、今後も年間約 6～7% の経済成長が続くと見込まれる中、1963 年に建設された同空港は、こうした航空需要の増加に対応するための拡張整備を必要としている。

同空港では、フランス等の支援により、滑走路・新国際線旅客ターミナル・新管制塔等の整備が進められているものの、安全運航に必要な整備はいまだ不十分であり、大きな課題となっている。また、同空港は山間部に位置し、霧による低視界が頻繁に発生するが、航空機を滑走路に誘導する計器着陸装置は、滑走路の一方向にしか設置されておらず、反対方向からの着陸の安全性は十分確保されていないため、円滑な航空機の運航に支障をきたしている。さらに、旅客施設の整備は行われているものの、貨物取扱施設は未整備である。同取扱施設は、建設から約 50 年が経過しており、著しく老朽化しているほか、温度管理機能・大型貨物取扱機能を持つ設備がない。そのため、航空貨物は設備がより整った周辺国へ流れてしまい、同空港は、貨物受け入れの商機を逸している。

このような状況に対応するため、貨物専用機の円滑な運航に資する施設の拡充および貨物ターミナルの整備が急務である。なお、同空港は、我が国が無償資金協力にて整備した道路を経由し、アフガニスタンまで約 3 時間の距離に位置する。この地の利を活かし、地域内貿易拠点としての役割が期待される。

(2) 当該国における航空セクターの開発政策と本事業の位置づけ及び必要性

タジキスタン政府は、同国の開発戦略である「生活水準改善戦略 (LSIS)」(2013-2015 年)において、空港整備や、2015 年までに全貨物量に対する航空貨物の割合を約 12% (2011 年)から 15%に引き上げる目標を掲げている。本案件は、これら先方政府の政策に合致するものであり、タジキスタンにおける航空需要の増加に対応するために必要なタジキスタン国際空港の拡張整備に寄与しうる。

(3) 航空セクターに対する我が国の援助方針

本案件は、我が国の対タジキスタン国別援助方針における援助の基本方針(大目標)「持続的な経済・社会発展が可能な国づくり支援」に沿うものであり、特に、援助重点分野

(中目標)「経済インフラ整備」が目指す物流改善による地域経済の活性化・安定化に寄与するものである。本案件を通じ、中央アジア諸国およびアフガニスタンとの連結性を強化することが可能である。

(4) 他の援助機関の対応

フランス政府

- 「ドゥシャンベ空港滑走路、誘導路、駐機場舗装改修工事」(2004 年・建設直接協力)
- 「ドゥシャンベ空港新国際線旅客ターミナル建設計画」(2012 年・有償資金協力)
- 「ドゥシャンベ空港航空交通管制塔建設計画」(2013 年(予定)・無償資金協力)

欧州復興開発銀行 (EBRD)

- 「タジク国営航空保安システム整備計画」(2001 年有償資金協力・技術協力)
(Japan Fund for Post Conflict Support および 日本・欧州協力基金 (Japan Europe Co-Operation Fund) より一部無償資金を支出)

3. 事業概要

(1) 事業の目的

ドゥシャンベ国際空港において、航空保安施設の近代化及び貨物取扱施設の整備を行うことにより、安全性と旅客・貨物処理能力の向上を図り、もって同国の人の移動・物流円滑化に寄与することを目的とする。

(2) プロジェクトサイト/対象地域名

ドゥシャンベ市

(3) 事業概要

1) 施設整備、機材調達等の内容

【機材】：計器着陸装置および精密進入灯

【施設】：新国際貨物ターミナルビル（貨物用 X 線検査装置を含む）

2) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容

コンサルティング・サービスとしては、詳細設計・施工監理を想定。ソフトコンポーネント(技術指導)の必要性・内容は、調査により確認。

(4) 事業実施体制

事業実施機関：ドゥシャンベ国際空港公社

(5) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

① カテゴリ分類:B

② カテゴリ分類の根拠:本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」(2010 年 4 月公布)に掲げる鉄道セクターのうち大規模なものに該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断され、かつ、同ガイドラインに掲げる影響を及ぼしやすい特性及び影響を受けやすい地域に該当しないため。

2) 貧困削減促進等：投資環境の改善、交易の拡大を通じて雇用増大に寄与する。

(6) 他スキーム、他ドナー、他案件等との連携：フランス政府（滑走路・旅客ターミナルビル・管制塔の整備）及び EBRD（航空保安システム近代化）と連携予定。

(7) その他特記事項：特になし。

4. 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓

(1) 類似案件の評価結果

ネパール「トリブバン国際空港近代化プログラムにおける空港管理設備改善計画」の評価等では、運営維持管理の重要性が示唆されている。

(2) 本事業への教訓

協力準備調査時にタジキスタン側の維持管理体制を確認することに加え、教訓を踏まえて、機材の不具合等が発生した際に迅速な対応が可能となるよう機材の交換部品の入手経路や機材を納入する企業の保守点検・修理体制等を十分に確認する。

以 上

ドゥシャンベ国際空港

タジキスタン